



# ひとなる



白川を愛し、たくましく心のあったかい子を育む美濃白川

鍛えの場・芽生えを培う場・やすらぎの場・広がり場

## 読書の魅力を再発見!!

### 美濃白川読書 フェスティバル

読書のまち白川を象徴するイベントとして、平成23年度から9年間続いていた「美濃白川読書サミット」。令和2年度からはコロナウイルス感染拡大防止のため中止としておりました。この度、「美濃白川読書フェスティバル」と名称を変え、読書を題材に、子どもから大人までが一緒に語り合う貴重な時間が戻ってきました。

12月9日(土)に楽集館にて「美濃白川読書フェスティバル」を開催しました。今回は、楽集館読み聞かせボランティアによる絵本の読み聞かせ、黒川在住の落語講師しゅうめみさんによる落語やことばのおもしろさについての講演会、そして集まった方々とおすすめの本の魅力について語り合うフリートークを行いました。



#### 楽集館読み聞かせ会 絵本の読み聞かせ

「絵を見る」「文字を見る」「読んでいる声を聞く」ということが同時に行われる絵本の読み聞かせは、脳を刺激して、多くの知識を積み上げる効果があります。今回の絵本は「花さき山」。人の優しさが咲かせる花や他人を大切にすることで咲く花があり、そんな花が一面に咲く山がある。私はこれまでどんな花を咲かせてきたのだろうか。そんなことを想像しながら、絵本の世界にどっぷり浸かりました。



#### 落語&講演会「ことばっておもしろい」



落語は身振りと手振りのみで話を進め、一人何役も演じます。衣装や舞台装置等を使わずに、演者の技巧と聞き手の想像力で話の世界が広がっていきます。しゅうめみさんの表情、仕草、口調等の変化によって、頭の中で何人もの人の会話のやり取りがあり、自分自身で最高に面白い物語を創り上げていきます。会場が笑いの渦に包まれる中で、微妙に人によって笑いのタイミングが違うのは、頭の中で想像される世界が人それぞれだからだと感じました。読書も落語と共通するところがあるのではないのでしょうか。



#### フリートーク「わたしのおすすめの本」

読書サミットでも好評であったフリートーク。大人から子どもまでが、共通の話題で語り合います。今回のテーマは「わたしのおすすめの本」。それぞれがこれまで出会った本の中で、みんなにおすすめしたい本を紹介し合います。好きな場面であったり、印象に残っている言葉であったり、自分の心の支えであったりと、理由は様々でしたが、どの本も読んでみたいと思いました。



平成26年に白川町は読書のまち宣言をしました。「五十年後、百年後、未来永劫、笑顔の絶えない住み良いまち、美濃白川の実現」というすべての町民の願いを読書に託しました。これまで「美濃白川読書サミット」として行ってきた活動は、よいところを継承しながら、新たに「美濃白川読書フェスティバル」として生まれ変わりました。読書は、私たちに知恵を授け、豊かな心を育み、発想力を培い、希望を与えてくれます。今後も、町民のみなさんと一緒に読書を楽しめる活動を推進していきます。

# 子ども議会が開会されました



12月20日、役場本庁議場において「子ども議会」が開催されました。本年度は白川小学校、蘇原小学校、黒川小学校の6年生児童と佐見小学校の5・6年生児童が参加しました。これは、社会科の単元「私たちの願いを実現する政治」における授業の1つです。1学期に政治の仕組みについて学習し、2学期に学習したことを生かして、白川町の未来について考え、改善すべき課題やその方途をみんなで考えてきました。そして、子ども議会の場で考えてきたことを提案し、答弁を聞くことで、政治のはたらきに関心をもつとともに、白川町の町づくりについてより深く考えることをねらいとしています。



子どもたちは事前に調査した白川町の課題に対する質問やその改善策について、熱のこもった提案をしました。特に子どもたちの関心が高かったのは「人口減少を食い止める方法」についてです。この課題に対して、白川町の特産品を生かしていく方法や町の魅力をどう発信していくとよいのかについて、子どもたちならではの視点で迫っていきました。また、廃校舎の有効活用についても豊かな発想で提案する姿もありました。自分たちが通った校舎が今後どのように活用されていくかについて高い関心があるということは、生まれ育った地に愛着があり、ふるさとを大切に思う心が育まれている証であると感じました。参加した役場職員・町議会議員からも「非常によく調べてあるし、課題解決策についても、非常に興味深い内容である。」という声があがりました。



若者の政治への興味関心が薄れていると言われる中で、今回の学習を通して、子どもたちは何度も何度も話し合いを繰り返し、生まれ育った白川町のためにできることを真剣に考えました。そして、考えたことを具現化するための仕組みについて学ぶことができました。これからもこうした体験活動を通して、これからの未来を担う力を培ってほしいと思います。

## 学校歯科保健先進校訪問 白川小学校



白川小学校は、旧白川北小学校が平成31年に岐阜県学校歯科保健優良校表彰において特選校を受賞、統合後もその伝統を引き継ぎ、現在も継続して歯科保健活動を続ける先進校として、県内のモデル校となっております。12月21日に白川小学校の活動を学びたいという先生方が県内各地から訪問されました。養護教諭の今井千咲先生より、歯科授業、ブラッシング指導、あいうべ体操等の活動の紹介があり、訪問された先生方から賞賛の声があがりました。白川小学校の取組が、岐阜県の歯科保健活動の推進や啓発という大きな役割を担っています。



### 鶯のさえずり（「ひとなる」編集日記）

お正月の遊びといえば、「すごろく」「羽根つき」「コマ回し」「凧揚げ」等を思い浮かべます。ところが、こうした遊びをしている姿はめっきり見るのがなくなりました。私が子どものころは、学校の行事に「凧揚げ大会」があり、どこまで高く飛ばせるかを競い合ったものです。どうしたら高く飛ばせるのかを考え、糸の重心を変えたり、足の長さを調整したりと、何度も試行錯誤を繰り返したことは今でも鮮明に覚えています。こうした遊びからもたくさんのことを学ぶことができ、今の子どもたちは、どんな遊びから何を学んでいるのかについて、今一度考える必要があるのかもしれない。とりあえず、まずは、娘や息子と凧揚げでもしてみようと思うK鶯です。